

水俣病公式確認60年 「終わってない」胎児性患者訴え 水俣市、シンポ最終回

水俣病 公式確認60年

「終わってない」胎児性患者訴え

水俣市、シンポ最終回

水俣病公式確認から5月1日で60年を迎えるのを前に、患者団体などをつくる実行委員会の「水俣病事件60年を問うシンポジウム」(3回)の最終回が27日、熊本県水俣市で開かれた。胎児性患者の坂本しのぶさん(69)が「年齢を重ねると

を求める」とする不知火海沿岸住民の健康調査についても、具体的にどう国を動かすのか、その本気度が問われていく。農業県にとっ

少女時代の写真を背景に、水俣病の被害や将来の不安を語る坂本しのぶさん(左)

27日、熊本県水俣市



症状がだんだん悪くなり、将来が不安。水俣病は終わらない」などと、解決にはほど遠い現状を語った。

坂本さんは「水俣病問題は全く変わってない。同世代(の被害者)にも未認定

て環太平洋連携協定(TPP)への対応も待たない。これまで以上に指導力と実行力が試される。

(前田淳)

カーナビ情報部

カーナビ車検

www.shineinet.com

●クルマは家族●

信栄自動車株式会社

TEL. 092-771-9048

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は27日、ブラックホールなどの観測を目指し2月に打ち上げたエックスマイト衛星「ひとみ」

衛星ひとみ通信途絶 姿勢異常で電力不足か

との通信が26日午後からほとんど途絶え、衛星の状態が確認できなくなったと発表した。衛星の飛行姿勢に異常が生じ、太陽電池で発電できずに電力不足に陥った可能性があるという。今後、通信の復旧を目指し作業を続ける。

の人がいる」と支援を呼び掛け、「国も県も、逃げてはだめだ」と訴えた。

水俣病問題の研究者や支援者からは、メチル水銀汚染が広がった不知火海沿岸以外にも含めた広範な被害の全容解明を求める意見や、

環境省主導の地域事業への疑問が示された。熊本学園大水俣学研究所センター長の花田昌宣教授は「謝罪と補償を求める被害者にとりだげ償っているのか」と、行政や原因企業チッソを批判した。

(河野潤一郎)

2016/05/15 日曜日

西日本新聞 朝刊

13 面 1 段

読書館 郷土の本 いのちの旅「水俣学」への軌跡 原田正純著

13

2016年(平成28年)5月15日 日曜日

西日本新聞

郷土の本



いのちの旅
「水俣学」への軌跡

原田正純著

世界に例をみない健康・環境破壊をもたらした水俣病は今年、公式確認から60年の節目を迎えた。だが、その教訓は十分に生かされているだろうか。

本書は、熊本大学医学部で水俣病を研究し、一貫して患者の立場から診断と研究を行い、人権の自の遺産として「水俣学」を提言して未来を展望する「水俣学」を提唱した原田正純医師(1934-2012)が書き残した回想と行聊の記録だ。

全体は、「水俣学」の原

像の忘れ得ぬ人ひとの地球を
脚む水銀汚染の繰り返される
過酷の希望の世にめざして
一の5章で構成され、各章と
も1編1,200字程度の達意
とゆいえる短文が集められて
いる。

例えば、水俣病研究半ばで
かんで死去した新潟大学の医師
の詩集をリマイン、環境破壊
の現場をリマイン、アフリカ、
中東に訪ねた「中国の水俣
病」レポート(例にも)な
どは貴重を記した。また、巻
末に収録されている花田昌
・熊本学園大教授の断片は、
原田氏の往事と「水俣学」を
解する内容となっている。
2002年に本誌などに掲載
した原稿をもとに刊行された
単行本を、節目の年に文庫化
した。

(岩波現代文庫・920円)

万国レコード博覧会

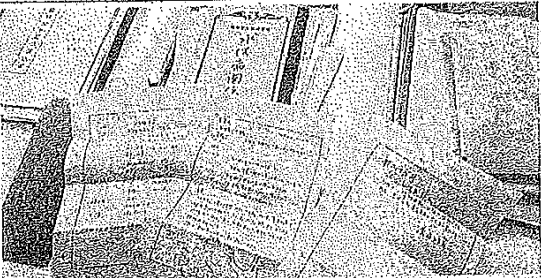
津田眞子、松隈美紀著

仕事や結婚、留学などで故
国を離れ、福岡に暮らす外国
人12人が教える母国の多国籍
文化

読書館

水俣病公式確認60年 水俣病史 新資料発見 「有機水銀説」の過程詳述 元熊本学長・故鰐淵氏が記録 熊本学園大で保管

水俣病史 新資料発見



熊本地震後に見つかった鰐淵健之氏の文書。患者発生報告（字前の8枚）や水俣病関係とするノートがある。11月31日、熊本市中央区（写真の一部を加工しています）

元熊本学長・故鰐淵氏が記録

熊本学園大（熊本市中中央区）で、水俣病関係の新たな資料が発見された。元熊本大学長の故鰐淵健之氏が、水俣病の原因として「有機水銀説」を発表した熊本大医学部研究班の会議録などを詳細に記したノートなどで、熊本地震で散乱した資料を整理する中で見つかった。所蔵する熊本学園大水俣病研究センター長の花田昌言教授は、「公式確認60年の水俣病史を発生初期から記す貴重な資料も含まれている。分析できていない資料も多く、調査したい」と話している。

熊本学園大で保管

文書は熊本学園大の一室に保管されていた。水俣病被害が一段ボール箱数箱に保存 拡大し始めた1950年代、鰐淵氏は熊本本学長（1950～59年）を務めており、当時から80年代までのノートや書簡、患者発生報告書などを計約300点が入っていた。



鰐淵健之氏（熊本本学長）

「有機水銀説」の過程詳述

水俣病 公式確認60年

「水俣病関係」と表題がある会議録ノートには「有機水銀をシロネスミに経口投与すること（水俣病の）症状が出ている」などと、医学部研究班が有機水銀説を発表する直前の生々しいやりとりが推かれています。鰐淵氏の弟子とされる研究班リーダーの徳臣晴比古氏（2014年死去）が鰐淵氏に送った「水俣病患者発生報告（六十九人目）」には、1959年の男性患者の症状を「3、10、舌がもつれ始め」などと日付入りの記録。「毎日刺し身を欠かしたことなく」と摂食状況も記している。当時のチソ水俣工場長が「存命中の患者について（死亡した場合）解剖した脳を分けてほしい」と依頼する文書もあった。鰐淵氏は48年に旧熊本医科大学長、59年には旧厚生省食品衛生調査会水俣病特別部会の委員代表などを歴任。熊本大医学部研究班の会議で報告を受ける立場もあり、それを記録していたとみられる。研究班は64年に水俣病研究の成果を書籍で刊行した。鰐淵氏個人が記したメモにはこれまでにない研究の舞台裏が記されている可能性がある。熊本学園大の前身の熊本商科大学長を務めており、同大には、1959年の男性患者が学長資料として保管されている。水俣病研究センターは資料の解析を進め、データへシフトする予定。（河野潤一郎）

2017/1/8

日曜日

西日本新聞

朝刊

20 面 5 段

「61年目」伝え方など課題議論 水
俣病の研究交流集会開幕 きょう医
学や訴訟 現状報告 130人参加

「61年目」伝え方など課題議論

水俣病の研究者や医師、患者、被害者の支援者らが全国から集まり議論する「第12回水俣病事件研究交流集会」（実行委員会主催）が7日、水俣市の市公民館で2日間の日程で始まった。初日は7人が六つのテーマで研究内容を報告、公式確認から61年目を迎える水俣病の伝え方や地域再生について意見を交わした。

元原健康福祉部長の森枝敏郎氏は1990年から5年間、水俣再生に取り組んだ経験などを振り返り、「問題に正面から向き合うことなくして、教訓は生まれない。過去にあたるし、歴史を塗り替えることは許されない」と強調した。

NHK熊本放送局の吉崎健一レクターは、胎児性患者の坂本しのぶさん(60)を記録した59年から現在までの映像を見せ、今後の課題などを説明した。加齢とともに進む症状の悪化や親の高齢化、生きがい探しに焦点を当て、「まだ60歳。これからどう生きていくのか、人として関心を持ってもらいたい」と訴えた。

集会は、水俣病研究の第一人者で医師の故原田正純氏が始めた勉強会

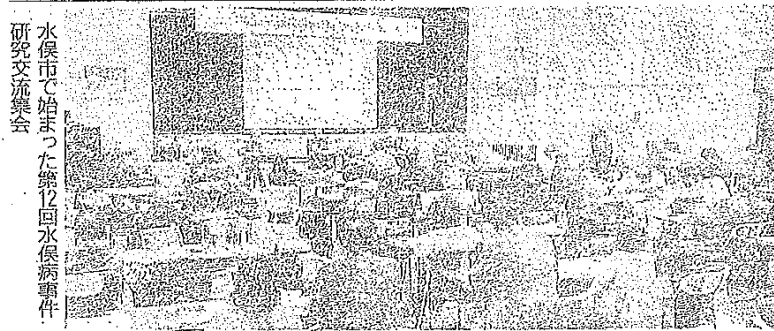
水俣病の研究交流集会開幕

きょう医学や訴訟現状報告

130人参加

を引き継ぎ、今年は約130人が参加。8日は午前9時半から、医学や訴訟の現状などについての報告がある。

(河合仁志)



水俣市で始まった第12回水俣病事件研究交流集会

毛髪水銀濃度、行政の線引き 「認定の壁」批判相次ぐ 水俣病の研究交流集会閉会

「認定の壁」批判相次ぐ

水俣病の研究交流集会閉会

毛髪水銀濃度、行政の線引き



水俣病事件研究交流集会で、行政が患者認定の目安としている水銀濃度などについて参加者と意見を交わす医師や研究者

全国の水俣病研究者や医師、環境関係者について報告や意見を交わす「第12回水俣病事件研究交流集会」(実行委員会主催)は最終日の8日、水俣市の市民館で医学や研究を中心とした議論が、研究者

や医師から「行政に都合のいい線引き」「科学的な根拠がない」との批判が相次いだ。

世界保健機関(WHO)は1990年、成人で神経症状の出現が疑われるメチル水銀の最小値を毛髪水銀濃度で50ppbと規定。国や県は患者認定の際の目安と位置づけ、訴訟でも50ppbを超える汚染がない限り発症することはない(新潟県)などと主張している。

新潟水俣病訴訟で未認定患者を支援する精神科医の丸山公男・新潟青陵大教授は66、86年に実施した診断結果を基に「50ppb未満でも安全ではな、国や県の勝手な線引き」と指摘。阪神中央病院(大阪府)の三浦洋一医師は基準値が採用された経緯に疑問を投げ、「副物質や

海外の事例から得た何の意味もない数字で、既に時効だと非難した。このほか、熊本学園大の中地重樹教授(環境化学)が、2014年と昨年、水俣病発症で実施した水銀濃度の底質調査や、昨年3月



ミュージカル「CASINASSO」を演じる出演者たち

に市民5人を対象に食事に含まれる水銀濃度を調べた結果を報告。「底質中の水銀濃度は全国の平均値より10〜70倍高く、食事についても継続して調査する必要がある」と述べた。(河合正志)

歌声で能本を元気に

熊本学園大で国際シンポ 先住民が報告

カナダの水銀被害を訴え

熊本学園大で国際シンポ 先住民が報告

カナダの先住民居留地で起きた水銀汚染について考える国際シンポジウムが18日、熊本市の熊本学園大で2日間の日程で始まった。

初日は、先住民代表のサイモン・フォビスターさん(61)ら3人が現地の現状や健康被害補償について報告し、「住民のニーズに合った補償になっておらず、制度の再構築を政府に要求している」などと語った。

カナダ中南部のオンタリオ州では1960年代以降、製紙工場の廃水に含まれた水銀で川が汚染され、その後住民らに健康被害が現れた。75年に医師の故原田正純さんが先住民たち

の健康調査を行い、汚染の実態を公表。86年、カナダ政府などは「水銀障害委員会」を設け、神経症状など

がある住民に補償金を支払う仕組みを作ったが、厳しい基準になっているという。

フォビスターさんは「原田さんは『水俣病が発生している』と言ったが政府は認めていない。川底の水銀



水銀汚染の被害について語るカナダ先住民代表のサイモン・フォビスターさん(左)たち

除去も十分ではなく、背景には先住民への差別がある」と訴えた。別の地区に住むマイヴィン・リー・マクドナルドさん(54)は「末娘が水銀中毒症と診断された時も州政府からは何の説明もなかった」と語った。19日は水俣市の市民館で、水俣病被害者の報告や先住民たちとの討論も行われる。(河合仁志)

復興支援団体育成へ熊本市で講座始まる
熊本地震からの復興を支える地元の支援団体を育成しようと、NPO法人のジヤパン・プラットフォーム(東京)が主催する集合講座が17日、熊本市で始まり、支援団体や行政関係者など約40人が参加した。

カナダと交流を継続 水銀国際シンポ閉会
水俣学研究センター

カナダと交流を継続
水銀国際シンポ閉会

学園大水俣学センター

カナダの先住民居留地で起きた水銀汚染について考
える国際シンポジウムは最
終日の19日、水俣市の市公
民館で水俣病被害者や現地
で調査に当たった医師の報
告があり閉会した。写真。

主催した熊本学園大水俣学
研究センターは2年に1
回、西国を相互に訪問し、
交流を続けていくことを確
認した。

2010年に居留地を訪
れ、検診をした協立クリニ
ック(水俣市)の高岡滋院



長は神経所見などを基に
「カナダと日本のメチル水
銀被害者の症候は類似して
いる」と説明。医師による
診察が現地で適切に行われ
ていないとして「(日本と
同様に)医学が行政にコン

トロールされてしまってい
る」と指摘した。

同センターの花田昌宣セ
ンター長は「現地では10代
の多くに感覚障害があるの
が驚き。カナダ国内での関
心は低く、引き続き調査や
交流を続けていきたい」と
語った。(河合仁志)

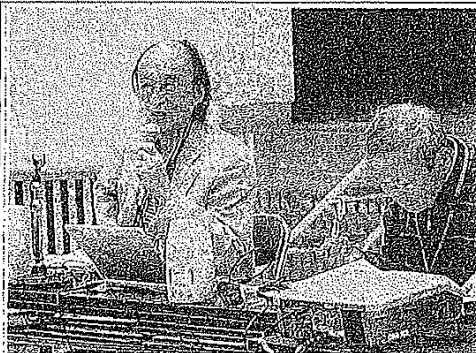
事件 事故

◆芦北町の畑で火災、男性
やけど 19日午前10時45分こ
ろ、芦北町告の畑約5千平方
米を焼く火事があった。芦北
署によると、畑を所有する近
くの平岩正義さん(89)が現場
で倒れており、両膝下にやけどを負って病院に搬送され
た。命に別条はないという。

弁護士ら国認定基準を批判
昨年の高裁判決評価高く

(第3優勝候補区)

西日本新聞



水俣市であった研究交流集会で、出席者の
頭上に答える高島寛弁護士（左）

水俣病の研究交流集会開幕 昨年の高裁判決評価高く

弁護士ら、国認定基準を批判

水俣市、ぎょうまで

水俣病の研究家、医師、支援者などが全国から集い議論する「第1回水俣病事件研究交流集会」(実行委員会主催)が6日、水俣市の市民館で2日間の日程で始まった。初日は水俣病の認定基準を巡る現行基準より幅広くとらえた昨年11月の東京高裁判決など、八つのテーマで8人が研究内容や訴訟経過を報告。約170人が参加して公式確認から約1年を迎える水俣病について意見を交わした。

新潟水俣病の認定申請を
棄却された9人全員を原告
認定するよう命じた昨年11
月の東京高裁判決で、訴訟
を支援した新井直路さん

新井直路さん(新潟)の弁護団長を務めた高島寛
弁護士は「良い方向で判決
が出た」と説明。上を所
念した新潟市の判決を「下

級審の判決例にとどめてお
いた方が国も対応しやすい
と考えたのではないかと
語り、背景に認定基準を現
状のまま維持したい国の思
惑があったと批判した。
熊本地震でも、患者認定
などを求める同様の訴訟が
続いており、高島氏は「認
定制度が今回の判決で変わ
らないとすれば、訴訟が続
発して国は批判を浴び続け
ることになる」と指摘。訴
訟を支援した新井直路さん
は「今回の判決はこれから
の水俣病の解決に向けて大
いに力づけられ、方向性が
出たと語った。

水俣病の患者認定を求め
て係争中の原告を診断して
いる三浦洋医師は、行政が
発症の増減値のみをみして
いる増減値を「不当」と

した上で、発症時期に関す
る国側の主張にも「根拠が
ない」と批判した。
集会は水俣病研究の第一
人である故原田正純氏
らが始めた勉強会を引き継
ぎ、毎年、水俣市で開催
する。

で開かれた「水俣病に関する
水俣条約」第1回締約国会
議に参加した船尾信雄君の
坂本しのぶさんらの報告の
ほか、水俣病の問題解決に
向けた研究発表などがあ
る。

(句合正志)

マルルなど人気者と再会

熊本市動物園 視察エリア拡大

熊本地震で地面の液状化
などの被害が出て、土日祝
日限定で閉園している熊本
市動物園(熊本市東区一
丁)は、立ち入り制限区域
の再会を心待ちにしてい

募集 Tシャツのデザイン
5万円 採用に
31日まで

当事者会の結成提案

被災地 熊本市で みなし仮設入居者ら

みなし仮設住宅の入居者
が直面する課題を話し合
うシンポジウムが6日、熊
本市中央区の熊本学園大
に住民ら約100人が参加し

水銀汚染多角的に議論
坂本しのぶさん「私の言葉伝わった」

水俣病事件研究交流集会在閉幕

(第3種郵便物認可)

坂本しのぶさん「私の言葉伝わった」

カナダ先住民居留地の浄化対策報告

水銀汚染多角的に議論

全国の水俣病研究者や医師、支援者たちが意見を交わす「第10回水俣病事件研究交流集会」(実行委員会主催)は最終日の7日、水俣市の市民会館で、胎児性患者の坂本しのぶさんの報告があった。カナダの先住民居留地で起きた水銀汚染に関する現状や、熊本学園大水俣学研究センターの活動を伝える発表もあり、「終わらない水俣病」を取り巻く課題の整理を中心に議論を深めた。

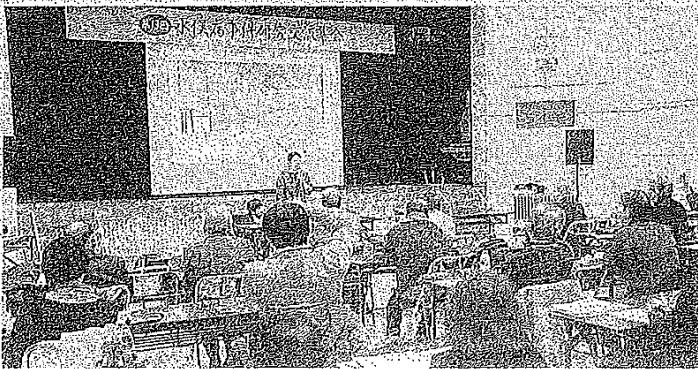
昨年9月にスイスで開かれた「水銀に関する水俣条約」第1回締約国会議に参加し、水銀被害の根絶を訴えた坂本さんは「私の言葉が伝わった」と語り、付添った支援者の谷田布さんは「いろいろな人と会う機会が得られ、充実した10日間だった」と振り返った。

カナダ先住民の水銀被害を研究する和光大(東京)の森下

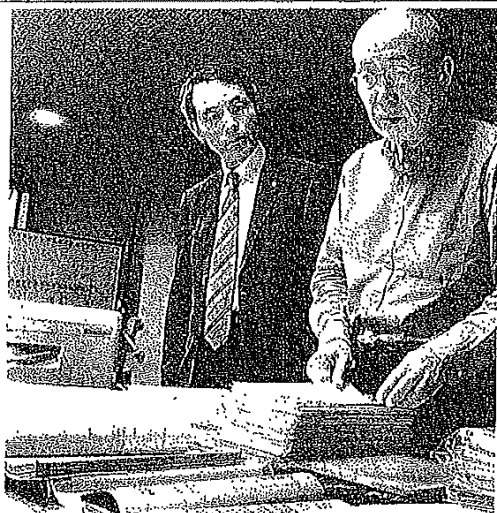
水俣病事件研究交流集会在閉幕

定申調を棄却された9人全員を原告認定するよう命じた昨年11月の東京高裁判決を踏まえた会合も市民会館であった。

高島章弁護士は「1人で認定患者を多く勝ち取るのが課題。この判決を具体的な成果につなげるため協力したい」と強調。訴訟支援団体事務局の飯野直路さんは「今回の判決で訴訟のハードルが下がった訴訟の輪を広げて、国の現行基準の見直しを求めていきたい」と述べ、活動への期待感を語った。会合を主催した水俣病被害者・支援者連絡会は、環境省や県への働き掛けを強める考えを示した。(河合正志)



胎児性患者の坂本しのぶさんが報告した「水俣病事件研究交流集会」



堀田さんは熊本大医学部

宮崎県高千穂町の土呂久鉍害をはじめ国内外でヒ素中毒被害の研究に長年取り組んできた熊本市の病院理事長堀田宣之さん(77)の研究資料を、熊本学園大(熊本市)がデータベース化し、5日から目録の一般公開を始めた。同大は「ヒ素中毒の調査研究として世界的に貴重」とし、堀田さんは「民間や大学の研究者が活用してくれればうれしい」と語った。

土呂久鉍害研究資料468点公開

熊本学園大 データベース化

寄贈の「広く利用して」堀田さん

を卒業後、1973年に同大物質医学研究所気質学部門の助手に。同部門助教教授だった故原田正純さんとも、公害問題に取り組んだ。

74年、国立熊本病院で偶然診察した女性が土呂久地区で働いており、水俣病に似た神経症状があったことがきっかけで、ヒ素中毒の問題に関心を持った。2011年ごろまで国内外で患者約千人を検診し、慢性ヒ素中毒が全身症状を及ぼす病態であることを証明。土呂久地区の住民が企業を相手に起こした訴訟では、住民側証人として法廷で証言した。「ヒ素中毒について深く知りたい」という探求心が原動力になった。寄贈した資料を手にする堀田宣之さん(右)と熊本学園大の幸田亮一学長

11日午後、熊本市

資料は、堀田さんの友人が運営する私設図書博物館「来民文庫」(熊本県山鹿市)で保管していたが、「広く利用してほしい」と16年に水俣学研究所センターがある同大に寄贈した。寄贈資料は、堀田さんが検診した患者のカルテや写真、ヒ素中毒に関する論文、訴訟で提出した証拠資料など約4千点。今回、468点の目録をまとめ、センターのホームページで公開した。原本は6日からセンターで閲覧できる。堀田さんは「ヒ素中毒には未解明な部分もあり、今後研究を進めてほしい」。花田昌宣センター長は「全身に神経症状があるヒ素中毒は、水俣病と共通点が多い。公害研究に役立ててほしい」と呼び掛けた。

(増知里)

次世代が語る 水俣学講座 (水俣学公開講座) 一緒に学ぶ平和 “共”育 修学旅行生に沖縄戦を伝える 株式会社がちゆん社長 国仲 瞬さん (25)

(第3版転載許可)

西

一緒に学ぶ平和 “共”育

修学旅行生に沖縄戦を伝える

戦争体験者や公費被害者が高齢化し、多くが亡くなつていく中、記憶の風化を乗り換え、次世代に何をどう伝えていくのか。「負の歴史」の継承をテーマにした公開講座(熊本県大分県研究センター主催)が2日、水俣市で始まった。毎週1回、沖縄戦や原爆

水俣病などの四大公害をテーマに計4回、各地の取り組みが報告される。初回は、沖縄への修学旅行生に平和学習のプログラムを提供している「株式会社がちゆん」(沖縄県中城町)社長の国仲瞬さん(25)が講話した。各回の講話の内容を随時紹介していく。(河合正志)

一 琉球女学校中、実習館 討論サークルを立ち上げ、翌年に紀要を出版した。修学旅行生連名の大会生花による別冊平和学習資料学校関係者の間で評判となり、受け入れ先の学校が埋まっていたという

「琉球女学校中、実習館 討論サークルを立ち上げ、翌年に紀要を出版した。修学旅行生連名の大会生花による別冊平和学習資料学校関係者の間で評判となり、受け入れ先の学校が埋まっていたという」

「琉球女学校中、実習館 討論サークルを立ち上げ、翌年に紀要を出版した。修学旅行生連名の大会生花による別冊平和学習資料学校関係者の間で評判となり、受け入れ先の学校が埋まっていたという」

「琉球女学校中、実習館 討論サークルを立ち上げ、翌年に紀要を出版した。修学旅行生連名の大会生花による別冊平和学習資料学校関係者の間で評判となり、受け入れ先の学校が埋まっていたという」

修学旅行生の交流も最初はボランティア活動だった。沖縄戦を伝えるという目的で、共に語り、共に学ぶ「共」育「ながら」も考えた。2014年、水俣市にある水俣病の資料館「平和の礎」で、ある生徒が「あの日は戦争を始める

たやが死んでいった所だ」と、沖縄戦や基地のことについて話しているのを聞いて、若い世代から無視されていくと怒った。この出会いが、学習プログラムを作らない起業につながった。

「琉球女学校中、実習館 討論サークルを立ち上げ、翌年に紀要を出版した。修学旅行生連名の大会生花による別冊平和学習資料学校関係者の間で評判となり、受け入れ先の学校が埋まっていたという」

「琉球女学校中、実習館 討論サークルを立ち上げ、翌年に紀要を出版した。修学旅行生連名の大会生花による別冊平和学習資料学校関係者の間で評判となり、受け入れ先の学校が埋まっていたという」

「琉球女学校中、実習館 討論サークルを立ち上げ、翌年に紀要を出版した。修学旅行生連名の大会生花による別冊平和学習資料学校関係者の間で評判となり、受け入れ先の学校が埋まっていたという」

「琉球女学校中、実習館 討論サークルを立ち上げ、翌年に紀要を出版した。修学旅行生連名の大会生花による別冊平和学習資料学校関係者の間で評判となり、受け入れ先の学校が埋まっていたという」



株式会社がちゆん社長 国仲 瞬さん(25)

くになか・しゅん 1992年、沖縄市生まれ。曾祖父が沖縄戦被害者。琉球大在学中の2013年5月、実現型討論サークル「がちゆん」を設立。由来は「が(神)ゆん(神)ち(神)ん(神)」(本気)で「ゆんたく」(掃除)することでおしゃべりをする。修学旅行生を対象に平和学習プログラムを提供する「株式会社がちゆん」を起業。県のアドバイザーとして、平和行政推進委員なども務めている。25歳。

「琉球女学校中、実習館 討論サークルを立ち上げ、翌年に紀要を出版した。修学旅行生連名の大会生花による別冊平和学習資料学校関係者の間で評判となり、受け入れ先の学校が埋まっていたという」

「琉球女学校中、実習館 討論サークルを立ち上げ、翌年に紀要を出版した。修学旅行生連名の大会生花による別冊平和学習資料学校関係者の間で評判となり、受け入れ先の学校が埋まっていたという」

次世代が語る 水俣学講座

「琉球女学校中、実習館 討論サークルを立ち上げ、翌年に紀要を出版した。修学旅行生連名の大会生花による別冊平和学習資料学校関係者の間で評判となり、受け入れ先の学校が埋まっていたという」

次世代が語る 水俣学講座 随時掲載 身近な環境問題に目を 四日市公害から学んだこと 自然観察指導員 谷崎仁美さん(34)

身近な環境問題に目を

四日市公害から学んだこと

「負の歴史」の継承をテーマに各地の取り組みを報告する公開講座(熊本学園大水俣学研究センター主催)の第2回目(9日開催)は、自然観察指導員三重連絡会の事務局長、谷崎仁美さん(34)が「四日市公害から学んだこと。今、私たちにできること。」と題して講話した。

四日市公害から学んだこと。



「環境問題に関心を持った大学生時代、生まれ育った三重県四日市市の塩浜地区で、深刻な大気汚染公害が起きていたことを知り、衝撃を受けた
母校の市立塩浜小は、国

「得意分野の人に伝える活動を通して、地域を良くしていきたい」と語る谷崎仁美さん(熊本学園大水俣学研究センター提供)

自然観察指導員

谷崎 仁美さん(34)

たにざき・ひとみ 1984年、三重県四日市市生まれ。青森大大学院で環境教育学を専攻。愛知県環境調査センター勤務を経て、2009年、四日市市環境学習センターを指定管理者制度で運営する民間企業「アクティオ」の社員に。15年3月、市の資料館「四日市公害と環境未来館」の開館に伴い、同社が環境学習イベントの企画、運営を業務委託されたため、スタッフとして活動。若者有志でつくる団体で、地域の環境保全にも取り組んでいる。34歳。

(第3種郵便物認可)

次世代が語る水俣学講座 戦後の被害伝える責任 被爆2世として生きる 山口被曝二世の会代表 寺中正樹さん(56)

戦後の被害伝える責任

被爆2世として生きる

「魚の塩漬」の権威者、いまに各地の取り組みを報告する公開講座(熊本) 学園大水俣学研究所(熊本)主催)の3回目(16日開演)は、山口被曝二世の会代表の寺中正樹さん(56)が「山口市」が「被爆2世として生きる」と題し講話した。

山口大待中、重慶の身体障害者が「進歩の中で共に生きられる社会を作る」と題し講話し、配りをしてある姿に目をやると、が落ちた。原爆の後遺症で満足に働けず、生きるだけで大変な父の姿が重なった。

「貧困や障害や病気は個人の責任ではなく、生きてく



「被爆2世には被害の姿を伝えていく責任がある」と語る寺中正樹さん

山口被曝二世の会代表 寺中正樹さん(56)

てらなか・まさき 1961年、山口県旧周東町(現岩国市)生まれ。父が14歳の時、広島県近くで被爆。自身も10歳の時、急性出血性ぼうこう炎に立ち上った。86年山口大で障害者解放運動に出会い、86年山口大に兄らと山口市被曝二世の会を立ち上げた。昨年2月、国に被曝二世への謝罪を求め、集団訴訟の原告。全国被曝二世団体連絡協議会副会長、山口市原爆被害者の会事務局長。56歳。

次世代が

水俣学講座 臨時掲載

「被爆2世として生きる」をテーマに、水俣学講座(熊本)が16日開演した。山口市被曝二世の会代表の寺中正樹さんが「山口市」が「被爆2世として生きる」と題し講話した。

「魚の塩漬」の権威者、いまに各地の取り組みを報告する公開講座(熊本) 学園大水俣学研究所(熊本)主催)の3回目(16日開演)は、山口被曝二世の会代表の寺中正樹さん(56)が「山口市」が「被爆2世として生きる」と題し講話した。

山口大待中、重慶の身体障害者が「進歩の中で共に生きられる社会を作る」と題し講話し、配りをしてある姿に目をやると、が落ちた。原爆の後遺症で満足に働けず、生きるだけで大変な父の姿が重なった。

「貧困や障害や病気は個人の責任ではなく、生きてく

「被爆2世には被害の姿を伝えていく責任がある」と語る寺中正樹さん

「被爆2世として生きる」をテーマに、水俣学講座(熊本)が16日開演した。山口市被曝二世の会代表の寺中正樹さんが「山口市」が「被爆2世として生きる」と題し講話した。

「魚の塩漬」の権威者、いまに各地の取り組みを報告する公開講座(熊本) 学園大水俣学研究所(熊本)主催)の3回目(16日開演)は、山口被曝二世の会代表の寺中正樹さん(56)が「山口市」が「被爆2世として生きる」と題し講話した。

山口大待中、重慶の身体障害者が「進歩の中で共に生きられる社会を作る」と題し講話し、配りをしてある姿に目をやると、が落ちた。原爆の後遺症で満足に働けず、生きるだけで大変な父の姿が重なった。

「貧困や障害や病気は個人の責任ではなく、生きてく

次世代が語る 水俣学講座 随時掲載 被害者の言葉を後世に 「公害経験」を伝えること

被害者の言葉を後世に

「公害経験」を伝えること

「負の遺産」の継承をテーマに各地の取り組みを報告する公開講座（熊本学園大水俣学研究所）が、11月1日（土）23日開講の4回目となる。講師は、弁護士のあおぞら財団理事長の村松昭夫さん（64）が、公害と企業活動との関係と、公害経験を伝えることと題し、講話した。

村松さんは弁護士になつた後、大阪市西淀川区の住民が阪神工業地帯の主要企業10社を相手、旧阪神高速道路公園を相手、環境被害への損害賠償などを求めた西淀川公害訴訟の弁護団に加わった。1999年から、7人の原告と企業側が和解、退去、相済を

「負の遺産」の継承をテーマに各地の取り組みを報告する公開講座（熊本学園大水俣学研究所）が、11月1日（土）23日開講の4回目となる。講師は、弁護士のあおぞら財団理事長の村松昭夫さん（64）が、公害と企業活動との関係と、公害経験を伝えることと題し、講話した。



あおぞら財団理事長 村松 昭夫さん(64)

むらまつ・あきお 1964年、山梨県生まれ。京都大学法学部卒業後、82年に弁護士登録（大阪弁護士会）。西淀川大気汚染公害訴訟で98年7月の全面解決に尽力。2006年提訴の京南アスベスト訴訟などで弁護団の中核となり、現在は大阪アスベスト弁護団長。中国や韓国、台湾の環境NGOなどとも約20年交流。10年からは、あおぞら財団理事長、日本環境会議副理事長も務める。64歳。

次世代が語る 公害経験を伝えること

「自分が伝えたいという「公害経験」を、明確に持つて伝えることが大事だ」と強調した村松昭夫さん。

次世代が語る 公害経験を伝えること

「伝えるべき事象は多岐にわたるが、被害者が声を上げ、裁判に立ち上がった歴史、加害企業や行政が事実を隠蔽した経緯、それを許し、放置した社会的経緯の構造、住民の意識や行動！、そういうことを踏まえた上での企業や行政の現在の取り組みも必要だろう」

「伝えるべき事象は多岐にわたるが、被害者が声を上げ、裁判に立ち上がった歴史、加害企業や行政が事実を隠蔽した経緯、それを許し、放置した社会的経緯の構造、住民の意識や行動！、そういうことを踏まえた上での企業や行政の現在の取り組みも必要だろう」

「財団では、学生向けの学習プログラムを作ったり、小学生に環境の授業を行ったりしている。ただ、伝える手段を技術的なものに集約しても、本当に伝えたいことが伝わらない。自分は何を伝えたいのかを一人一人が公認にして、迷わずに手にとり、経験を伝えていくことが問われている」

「伝える側が、何を伝えたいのかを明確に持つていくことが大事だ。私の場合は、珠玉と感じた被害者たちの言葉を数多く出合ってきた。長年、ぜんそくを患った高校生の子をして、母が涙を流した言葉がある。『アア、この子、こんなに大きかったんだと、うつぶせで背を丸めてしがらむことがない子も、抱きかかっていた。初めておむつに換えた時の一言だ。短い瞬間の中に、被害者の思いが詰まっていた』」

「自分が伝えたいという「公害経験」を、明確に持つて伝えることが大事だ」と強調した村松昭夫さん。

次世代が語る 水俣学講座 最終回
水俣・芦北公害研究サークル 高木
実さん (61) “真実”を見極める
力を 水俣病を学び伝えていく

(第3権限(限)認可)

“真実”を見極める力を 水俣病を学び伝えていく

「真の遺産」の継承をする、(候補者)の政策の善が役立っている」
「マに各地の取り組みを報
告する公開講座(熊本学園
大水俣学研究会)で、主
催の最終回(10月30日開
催)は、水俣・芦北地域の
小中学校教諭などにつくる
水俣・芦北公害研究サー
クルの高木実さん(61)が水俣
市で「水俣病を学び伝え
ていく」を話し、講話した。

高木さんは1980年代
後半、水俣市立水俣第二中
勤務時に、教育現場で水俣
病の授業を実践していた同
サークルに参加。社会科教
諭として水俣病をどう伝え
るかを模索してきた。

「社会科は主権者教育と
言ってもいい。選挙の際に
自分の判断で投票先を決め



水俣・芦北公害研究サークル
高木 実さん(61)

たかき・みのる 1957年、福岡県志
免町生まれ。八代高、佐賀大卒業後、
熊本市立龍田小に勤務。85年、水俣市
立水俣第二中に社会科教諭としてサ
ークルに入り、水俣病の授業実践に取
組む。全国組織のサークル、地理教育
研究会員。今年3月に水俣市立東中を
定年退職、現在は再任用で市立緑東中
に勤めている。61歳。

「公書研究者の草井井
さんは『権限や情報を持っ
ている立場の人たちの何倍
も勉強しないと、本当のこ
とが伝えられず、たまされ
ていっても見抜けない』とい
う趣旨の発言をしていた。
水俣病の歴史でも、権力を
持つ人たちが情報を操作
して来た事がある」
「生徒たちには『本当が
な』と疑問に思う癖をつ
けてもらいたい。インター
ネットに出てくることをう
ろかしている。生徒たちは
『これで問題を生まないか
な』と疑問する。この文
庫だと、水俣病の発生した
場所が水俣市だと風
人がいる。不知火海を渡り
は、関係の本が置かれて、
解決の仕方が見えてくる。
じっくり考えず、何となく
正しいかな、と思うことは
危うい。真実を正しく知る
という力を養っていきたく
と願っている」
(まどろ・河合(記)

「水俣病の学習を通じて何となくではなく
自ら検証し、事実を正しく知る生徒たち
に育てていきたい」と語った高木さん

「水俣病の学習を通じて何となくではなく
自ら検証し、事実を正しく知る生徒たち
に育てていきたい」と語った高木さん

「公書研究者の草井井
さんは『権限や情報を持っ
ている立場の人たちの何倍
も勉強しないと、本当のこ
とが伝えられず、たまされ
ていっても見抜けない』とい
う趣旨の発言をしていた。
水俣病の歴史でも、権力を
持つ人たちが情報を操作
して来た事がある」
「生徒たちには『本当が
な』と疑問に思う癖をつ
けてもらいたい。インター
ネットに出てくることをう
ろかしている。生徒たちは
『これで問題を生まないか
な』と疑問する。この文
庫だと、水俣病の発生した
場所が水俣市だと風
人がいる。不知火海を渡り
は、関係の本が置かれて、
解決の仕方が見えてくる。
じっくり考えず、何となく
正しいかな、と思うことは
危うい。真実を正しく知る
という力を養っていきたく
と願っている」
(まどろ・河合(記)

2019. 9. 10 火曜日

西日本新聞 朝刊

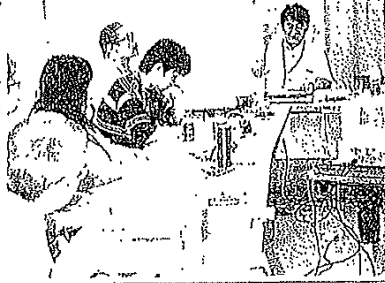
24 面 1 段

水俣病 若手研究者学ぶ 講義や患者の声を聞く

西日本新聞 朝刊 2019年(令和元年)9月10日 火曜日

水俣病 若手研究者学ぶ

講義や患者の声を聞く



花田眞堂センター長(奥)の講義に耳を傾ける参加者たち

講義やフィールドワークを通じて水俣病の現状と課題を伝える「若手研究セミナー」が6、8日、水俣市内であった。各分野の研究内であった。各分野の研究内であった。各分野の研究内であった。

初日は花田眞堂センター長が講義し、水俣病問題の解決策として、被害者本人が原告としての申請をするのではなく、行政が健康管理手帳を一律に配布する制度を提案、対象地域や年代は被害者団体と協議し、症状があれば補償する仕組みにすれば、認定申請をためらう被害者も広く救済できるとした上で「偏見、差別が残る中、現行制度では被害者全員の取りこぼしは避けられなかった」と指摘した。

2日目は参加者が3グループに分かれ、胎児性患者や患者認定を巡る係争中の種々の坂本 透さん(奥)は「初めて被害者と話して実感した。全が国重宝は直接話の声を聞き、改めて水俣病を終わっていない」と話した。

(花田眞堂)

2019. 9. 20 金曜日
西日本新聞 朝刊

26 面 3 段

引きこもり支援 水俣で公開講座
24日から受講者募集

ひきこもり支援 水俣で公開講座

24日から 受講者募集
熊本学園大水俣学研究センターは24日から、ひきこもりをテーマにした公開講座「『ひきこもり』を知る・考える―個人の問題』で片づけてしまわないため」を水俣市浜町2丁目の市公民館で開く。毎週火曜開催の全4回。受講無

料。

初回は、県ひきこもり地域支援センターの富田正徳所長と西田稔参事が、行政による支援の現場について紹介。10月1日は、九州大学大学院医学研究院の加藤隆弘講師が、海外との比較調査を通じて国内にひきこもりの問題が多い背景を語る。
同8日は、熊本学園大社会福祉学部助教授の城野匡教授

が、児童・思春期外来の取り組みを講演。同15日は、水俣市社会福祉協議会の秋山真輝主任相談支援員が同協議会の活動を報告す

る。

4回とも午後6時半から。各回ごとに受講できるが、事前申し込みが必要。同大水俣学現地研究センター
0966(63)5030。

公開講座「ひきこもり」を知る・考える 県支援センター 西田稔参事・富田正徳所長 「関わり」見直す機会に (熊本学園大学水俣学研究中心主催)

公開講座「ひきこもり」を知る・考える

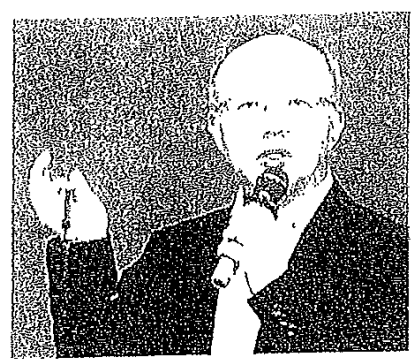
①

は、電話での個別相談や交流会、家族向けのセミナーなど、センターの業務を紹介。「できることは多くなく、何が正解かわからないが、家族と一緒に考えている」と話した。その上で、最初に相談に訪れた。家族も疲弊している場

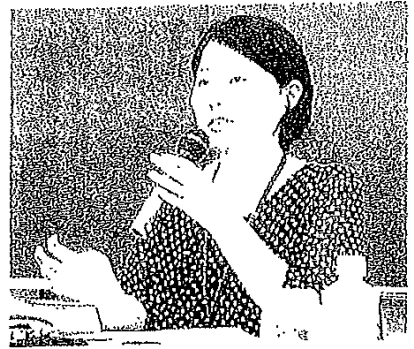
「関わり」見直す機会に

引きこもりをテーマにした公開講座「『ひきこもり』を知る・考える」『個人の問題』で片づけてしまわないために「熊本学園大水俣学研究中心」主催、計4回）が24日、水俣市公民館で始まった。10月15日まで週1回、行政の支援や海外との比較調査、児童・思春期外来などの取り組みを報告する。各回の講座の内容を随時紹介していく。(村田直隆)

県支援センター 西田稔参事・富田正徳所長



『ひきこもり』が問いかけるものをテーマに講話する富田正徳氏



県ひきこもり地域支援センターの取り組みなどを紹介する西田稔氏

引きこもり支援の際、「信用できない」「恥をかきたくない」などの理由で拒否する人がいる一方で、「このままでは不安」親の顔を立てる」などの理由で支援を受け入れる人がいる、という研究資料を紹介。「どちらも大変な葛藤の中にある。人間関係の再開には、それだけ大きなエネルギーが必要だ」ということと分析した上で「引きこもりの問題を考えるにあたって、人との関係や社会との関わりを見直す機会にしてほしい」と、自戒を込めて訴えたい」と締めくくった。

合が多いため、「地域社会が孤立を防ぐ取り組みが大事」と付け加えた。家族が本人に接する際には、「いつになれば学校に行くの」「親がくんなったら、あなたは生きていけないよ」などという意見の押し付けを控えることを勧め、「一番苦しんでいる本人に共感する言

公開講座「ひきこもり」を知る・考える (2) 九州大病院精神科神経科 加藤隆弘講師 社会回避生む「恥」の文化 (引きこもりをテーマにした公開講座(熊本学園大学水俣研究センター主催)の第2回では、九州大病院精神科神経科の加藤隆弘講師が1日夜、「国際調査で見えてきた『ひきこもり』の課題—なぜひきこもりは日本におおいのか?」と題して話した。・・・)

2019年(令和元年)10月3日 木曜日

20

引きこもりをテーマにした公開講座(熊本学園大学水俣研究センター主催)の第2回では、九州大病院精神科神経科の加藤隆弘講師が1日夜、「国際調査で見えてきた『ひきこもり』の課題—なぜひきこもりは日本におおいのか?」と題して話した。

九州大病院 精神科 加藤隆弘講師



国際調査を踏まえ引きこもりについて語る加藤隆弘氏

社会回避生む「恥」の文化

調査は、全の国の医師が存在する」と回答。治療法が「引きこもり状態にある人について「何もしない」と答

えた精神科医が日本だけだった一方で、韓国では「積極的に閉鎖病棟で治療する」とする回答が半数以上。「同じ引きこもりでも、国によって扱われ方が全然違ってくる」と述べた。

日本社会の特性として、「日本人は安心を求め、ルールが外れないような教育を受ける」と加藤氏は、「会社に入ると突然ルールがなくなり、多くの人が戸惑う」と分析。リソースを費やすことができる「閉鎖社会」である韓国と比較して、不安を抱きやすい環境

公開講座「ひきこもり」を知る・考える

KUMAMOTO

配達の間い合わせ
購読の申し込みは
0120-44-0120
(午前7時~午後8時)

- ▽熊本総局
〒862-0975
熊本市中央区新設敷
1-5-1
☎096(362)5111
FAX(362)5113
- ▽荒尾・玉名支局
☎0968(63)0127
FAX(63)0157
- ▽阿蘇支局
☎0967(22)3507
FAX(22)3513
- ▽人吉支局
☎0966(22)3326
FAX(22)3576
- ▽水俣支局
☎0966(63)2357
FAX(63)2366
- ▽天草通信部
☎FAX
0969(24)7977

あすの朝(中隔)	9月6日	目入	17.69
月曜	9月9日	目入	17.18
目出	6.13	目入	17.69
月出	11.88	目入	22.18
4日		月出	12.24
		月出	23.57
		月出	12.24
		月出	23.57
		月出	12.24
		月出	23.57
		月出	12.24
		月出	23.57

2019.10.4

金曜日

西日本新聞

朝刊

20 面 5 段

「部落差別は現在の問題」 荒尾市
で花田教授講演（水俣学研究セン
ター長）



9月28日の講演で、花田氏は2016年施行の部落

人権・同和問題講演会が荒尾市であり、熊本学園大学社会福祉学部の花田昌喜教授が「部落差別の現状と課題」と題し講演した写真。市社会人権・同和教育推進協議会などの主催。

「部落差別は現在の問題」

荒尾市で花田教授講演

調印式で草村町長は「互いの魅力を再発見し、共同で発信しながら、両町の交流人口、外からの関係人口を増やしていきたい」。出席した同連合の長谷川昭憲学務理事は「合併した多く

の自治体が、そのメリットを実感できずにいる。これからは小さな町村の緩やかな連合体が強みを発揮していく時代になるのではないか」と話した。
(佐藤倫之)

差別解消推進法について「部落差別が現在もあることを初めて法律に書き込み、そこを差別解消への出発点にしていることが画期的」と評価。実際にこの10年に起きた被差別部落への差別を助長する発言や調査、インターネットの書き込みなどを紹介し「決して過去の問題ではないことを知ってほしい」と訴えた。

その上で「部落差別は社会全体の問題。部落解放同盟や運動体に任せればいいというのは筋違いで、一緒に取り組もうという発想が大事。原則は一人一人の命

の尊厳を大事にしていくことだ」と呼びかけた。
(宮上良二)

公開講座「ひきこもり」を知る・考える (3) 熊本学園大学社会福祉学部 城野匡教授 転機の時に支える準備を

熊本 KUMAMOTO

配達の間い合わせ 購読の申し込みは 0120-44-0120 (午前7時-午後8時)

▽熊本総局 〒862-0876 熊本市中中央区新風敷 1-5-1 ☎096(362)5111 FAX(362)5113
▽荒尾・玉名支局 ☎0963(63)0127 FAX(63)0157
▽阿蘇支局 ☎0967(22)3507 FAX(22)3513
▽人吉支局 ☎0966(22)3328 FAX(22)3578
▽水俣支局 ☎0966(63)2357 FAX(63)2366
▽天草通信部 ☎FAX 0968(24)7377

Table with exchange rates for various locations like 三角港, 水俣港, etc.

公開講座「ひきこもり」を知る・考える

引きこもりをテーマにした公開講座(熊本学園大学保健学研究センター主催)の第3回では、精神科医で熊本学園大学社会福祉学部教授の城野匡氏が8日夜、「原重・風巻朋外米を通して考える『ひきこもり』支援」と題して話した。

城野氏は今年3月まで熊本大病院に勤務。現在は単一向診療に出たっている経験を踏まえ、引きこもりも不登校の状態にある未成年の心健が変化してきたことに着目。「昔前は、自己の確立などで悩み、感行願願するけどうまく

熊本学園大学社会福祉学部 城野匡教授



未成年の引きこもり支援について語る城野匡氏

転機の時に支える準備を

「いかなる人がいた」とある一方、「今は学校で急ぐ周囲へ」の過剰な気から不登校になる場合が多い。悩まどうよう

り怖くて避けているので、成長のための支援がより必要」と分析した。続いて、2017年に熊本大病院で診療した引きこも

りなどに悩む未成年約120人が、精神科的にどんな症状があったかを示すグラフを紹介。「医療的に対応しているのは、1部と前置きした上で、1校半校はの鑑別過敏やこだわりの強さといった障害がある。自閉症スペクトラムと診断され、そのうち人への対応をしている」と話した。(せとめ、村田真由)

水俣病研究交流集会始まる 「差別根絶へ教育重要」 元高校教諭 体験踏まえ報告

水俣病事件研究交流



教育と水俣病をテーマに語る石井雅昭さん

水俣病研究交流集会始まる 「差別根絶へ教育重要」

元高校教諭 体験踏まえ報告

水俣病の研究者や医師、支援者らが集い議論する「第15回水俣病事件研究交流集会(実行委員会主催)」が11日、水俣市浜町の市公民館で始まった。初日は約170人が参加し、「教育」「係争中の訴訟の2分野について報告

があった。熊本学園大水俣学研究所(石井雅昭さん)が登壇。水俣病で1年生の担任だった1988年、授業で水俣病研究の第一人者である藤原田正純氏の著書

の読後感を話したことを振り返った。無関心な生徒が多い中、ある女子生徒が授業の終盤、感涙を誘った。来園人写真家の故コージン・スマエ氏の写真集を手に、「この写真集は私のお姉ちゃんです。お姉ちゃんを殺したチツンが憎い。みんな水俣病をもっと真剣に考えてほしい」と声を振り絞ったという。

石井さんは、女子生徒の思いを察せず、「教師面をしていただけを頼んだ」と弁白。その後、公衆教育を続けたが、チツン関係者や職場の上司から圧力を受

けたという。現在の水俣病教育も十分と感じるといい。今はお姉ちゃんをなくすには、正しく教育を取り上げてほしいと訴えた。また、水俣病被害救済法に基づき救済策から漏れ

た人らが原告となった集団訴訟を提起した。訴訟は、訴訟費用の村山雅則弁護士が現状を報告。救済策の対策地域外に住みながら一時金が支給された約千人分の居住者が、国と県が提出した資料で判明したことに

示せば、今後の関心は生かすことが、われわれに求められている」と述べた。集会は藤原田氏が始めた勉強会を引き継ぎ、毎年水俣市で開催している。(村山雅昭)

2020.01.13 月曜日

西日本新聞 朝刊

16面 1段

被害者への中傷 脱却を 水俣病研究集会最終日 国の差別も問題視

西日本新聞

2020年(令和2年)1月13日 月曜日

被害者への中傷 脱却を

水俣病研究集会最終日 国の差別も問題視

水俣市で開かれた「第15回水俣病事件研究交流集会」は最終日の12日、水俣病を巡る社会的な課題や医学的研究に関する報告があった。水俣病被害を訴えたために地域社会内で批判される問題や、訴訟を巡る国の対応について意見を交わした。

熊本学園大水俣病研究センター長の花田昌宣教授（社会福祉学部）は、行政から水俣病と認定されていない被害者が「ニセ患者」と言われ苦しむ問題について講演。「補償金目的」「水俣のイメージが悪くなる」と批判され被害を訴えにくくなる構図があることを解

水俣市中で開かれた「第15回水俣病事件研究交流集会」は最終日の12日、水俣病を巡る社会的な課題や医学的研究に関する報告があった。水俣病被害を訴えたために地域社会内で批判される問題や、訴訟を巡る国の対応について意見を交わした。

熊本学園大水俣病研究センター長の花田昌宣教授（社会福祉学部）は、行政から水俣病と認定されていない被害者が「ニセ患者」と言われ苦しむ問題について講演。「補償金目的」「水俣のイメージが悪くなる」と批判され被害を訴えにくくなる構図があることを解

くかのような記述をしたことを問題視。「国が筆々と露骨な差別発言をしている」と批判した。

その上で「これらの事実をきちっととらえ、ひっくり返していく必要がある。被害者個人というより、地域社会で抵抗力を持ったコミュニティをつくるしかない」と問題を共有して対応する重要性を指摘した。

また、協友クリニック（同市）の高岡滋院長は、水俣病を巡る訴訟で被害の環境省に依頼され、日本神経学会が国側の主張を追認する内容の「見解」を作成したことに言及。「見解の根拠となる観察（健康調査）が欠落しており、医学の根本から逸脱している」と非難した。（村田直隆）



水俣病事件研究交流集会で現状の課題を語る花田昌宣氏

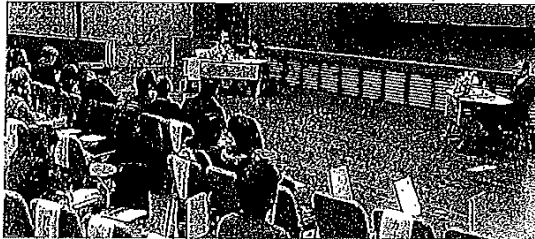
2019/02/23 土曜日

南日本新聞 朝刊

30 面 8 段

熊本市で環境フォーラム
水俣病教訓世界へ発信
「偏見根強い」調査報告

熊本市で環境フォーラム 水俣病教訓 世界へ発信



世界の環境被害などについて話し合う国際フォーラム。22日、熊本市の熊本学園大

「偏見根強い」調査報告

を患っていることを報告。被害者への支援や、問題を風化させないことの大切さを訴えた。

水俣病研究センター長で社会政策が専門の花田昌宣教授(66)は基調講演で、水俣病の公式確認から60年となった2016年に実施した、患者や被害者らを対象とした調査結果を報告。回答した2619人のうち約2割が「差別や偏見が強い」としたことを紹介し、「なお偏見が根強く、水俣病を隠して話せない人がいる」と指摘した。

国際フォーラムは24日、熊本県水俣市で討論が行われて閉幕する。

水俣病の教訓を国内外で生かすため、世界の環境被害や課題について話し合う国際フォーラムが22日、熊本市で始まった。熊本学園大の水俣病研究センターなどが主催し、今回で3回目。国内と東ア

ジア、カタダから被害者や研究者ら約110人が集まり、各国の状況を報告した。韓国から来日した趙淳美さん(49)は、加湿器用の殺菌剤に含まれていた有害物質の影響で、重いぜんそく

2019/02/25 月曜日

南日本新聞 朝刊

25 面 10 段

公害被害なくせ 国際交
流を確認 水俣フォーラ
ム閉幕



熊本県水俣市で開かれた、世界の環境被害をテーマにした国際フォーラム。24日午後

公害被害なくせ 国際交流を確認 水俣フォーラム閉幕

水俣病の教訓を国内外で生かそうと、世界の環境被害をテーマにした国際フォーラムが24日、熊本県水俣市で開かれ、国内と東アジア、カナダの被害者や研究者ら約100人が今後の課題などを討論した。地球上から公害をなくすため、被害者や支援者らが交流を深めていくことを確認し、同日閉幕した。

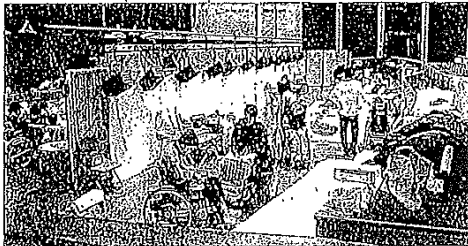
フォーラムは熊本学園大の水俣学研究センターなどが主催。3回目の今回は、初日の22日に参加者らが熊本市に集まり、各国の状況を報告した。

2日目のフォーラムでは、河川の水銀汚染の被害者、カナダのシユナイ・ダ・シルバさん(57)が「産業を発達させた影響で私たちは同じように病に苦しんでいる。団結して助け合うことが大事だ」と強調した。「水俣被害者互助会」の佐藤英樹会長(64)は、水俣病が解決しない理由は「被害者に向き合っていないからだ」と指摘。国や加害企業などに対し、被害者の声に耳を傾け、十分に補償するよう求めた。

素人の力を生かす 熊本
学園モデル 学生らで柔
軟運営

福祉避難所は今 熊本地
震から3年①

素人の力を生かす



地震発生後の熊本学園大学多目的ホール。草いすの避難所からも受け入れられている。
＝2016年4月、熊本市中心区（岡大提供）

熊本学園モデル

福祉避難所は今 熊本地震から3年

学生らで柔軟運営

熊本学園大学（熊本）後援校の熊本県が、0人全受容、車いすの
市が、熊本県学生「三丁」だ。最大5
熊本学園大学（熊本）後援校の熊本県が、0人全受容、車いすの
市が、熊本県学生「三丁」だ。最大5
熊本学園大学（熊本）後援校の熊本県が、0人全受容、車いすの
市が、熊本県学生「三丁」だ。最大5

いす利用者が開放
目撃した5月末、大学
は避難所として自ら
運営した。

活動の記録は「大卒
避難所のモデル」で
花田教授は「高層ビルも避難所
も地域の一角、介助の
必要が、本人が
ながら進めよう
柔軟な運営が必要だ」と
指摘する。

素人の力を生かす
活動は熊本地震後も
進み、熊本学園大の
熊本地震対策部
（熊地部）は、昨年
度、学生ボランティア
による炊き出し研
究や、災害弱者への対応
を学ぶ講座を開い
た。直江邦彦教授は
「一層、被災者や介護
士などの協力を得
て、避難所運営の
教育もいる。避難所運
営は、被災者の命を
守る上で欠かせない。熊
本地震の発生から3年
が経ち、避難所の運営
は、熊本地震の復興
を支える重要な役割を
果たしている」と話す。

熊本地震発生後、熊本県は、0人全受容、車いすの
市が、熊本県学生「三丁」だ。最大5
熊本学園大学（熊本）後援校の熊本県が、0人全受容、車いすの
市が、熊本県学生「三丁」だ。最大5

いす利用者が開放
目撃した5月末、大学
は避難所として自ら
運営した。

活動の記録は「大卒
避難所のモデル」で
花田教授は「高層ビルも避難所
も地域の一角、介助の
必要が、本人が
ながら進めよう
柔軟な運営が必要だ」と
指摘する。

素人の力を生かす
活動は熊本地震後も
進み、熊本学園大の
熊本地震対策部
（熊地部）は、昨年
度、学生ボランティア
による炊き出し研
究や、災害弱者への対応
を学ぶ講座を開い
た。直江邦彦教授は
「一層、被災者や介護
士などの協力を得
て、避難所運営の
教育もいる。避難所運
営は、被災者の命を
守る上で欠かせない。熊
本地震の発生から3年
が経ち、避難所の運営
は、熊本地震の復興
を支える重要な役割を
果たしている」と話す。

見えぬ最終解決 潜在被害
調査手つかず 水俣病
特措法10年

見えぬ最終解決



熊本県水俣市で民間医療団体が開いた検診
=6月

潜在被害調査手つかず

水俣病特措法10年

四大公害病の一つ、水俣病の被害を訴えながら、患者認定を得られずにいた人々への特別措置法が、2009年に施行されたから15日、10年となる。この法律で約3万8千人が救済されたものの、1万人ほどは対象外の判定。漏れた人々は裁判闘争を続ける。法が掲げた「公害問題の原点的最終解決」は見えない。▽面参照

水俣病公認式確認から

63年が過ぎた。今年6月、熊本県の民間医療団体などが同県水俣市で開いた検診で、医師は受診者に居住履歴や魚介類の食歴を質問。針や筆を手足に当てて反応を確認した。「風呂の湯加減がちょうどよい」と思っていた女性は感覚の違和感を訴えた。検診は月1回、約200人が順番

▼裁判闘争

公認健康被害補償法の患者認定や特措法などの救済を受けられていない人々のうち、検診で「疑いあり」とされた人の割合は、最大の被害者団体「水俣病不知火患者会」へ。同会や熊本県、原因企業チツソに損害賠償を求めて、東京、大阪、熊本などの3地域で2013年から同会が展開する集

Q 文川 昌

水俣病特別措置法 2009年の水俣病調停訴訟で被害者認定の約が降りた。12年7月未だ申請が打ち切られるまで熊本、鹿児島、新潟の3県で計約4万8千人が申請したが、うち約2割は対象から外れと判断した被害者だ。



団訴訟に加わるという。東訴訟の土田綱子さん(61)東京都杉並区は、魚売りの両親と熊本県大津町で18歳までを過ごした。魚は毎日、食卓に並んだ。タンパク質は、これしかないから。子ども

の頃から頻りにこわら返りがあり、耳鳴りもする。症状に疑いを抱いたのは、特措法が施行された09年7月15日より後。申請したが認められなかった。

特措法は、かつて水俣に海された不知火海岸に居住歴がある人々の健康調査を、政府に

が必要となるため、ハイドルが高くとされる。熊本学園大・水俣学研究所センター長の花田昌博教授(社会政策)は「多くの被害者が調査を研究している」と答えるに止まった。不知火海岸の元島市湖事務局長(67)は「被害者が広範囲なのは、調査を後世に伝えるためにも、全病の解明を」と早期実施を求めている。

同法は、チツソの事業を引継いだ子会社JNNの株主認定も定め、救済給や損害賠償の承認を条件に挙げたJNCを上場し、株式売却の意向を持つチツソ。被害者側は「調停の引引きを認めるのでは」と懸念する。環境省は「大津町で、承認できる状況はない」と述べた。認識は変わらぬ」との姿勢だ。

熊本県の浦島船大知野は7月初頭の会談で現状の認識を示した。「裁判が長く、最終解決に至っていない」

2019/09/08 日曜日

南日本新聞 朝刊

3 面 11 段

水俣病患者宅訪ね実態学
ぶ 水俣でセミナー



水俣病患者宅 訪ね実態学 ぶ 水俣でセミナー

水俣病被害の実態や課題を学ぶセミナーが6日から熊本県水俣市で始まり、東京や大阪などの若手研究者ら10人が参加した。7日は患者宅を訪ねて生い立ちや暮らしぶりを聞き取り、複雑な救済策や訴訟の流れも学んだ。水俣病被害者互助会

の会長で、胎児・小児期のメチル水銀被害を巡って裁判闘争中の佐藤英樹さん(64)は、自宅で聞き取りに応じた。写真は、二国や県の対応は患者の切り捨て。被害を受けた人が偏見や差別に遭うこともおかしい」と訴えた。

特別講演では、公害訴訟に詳しい立教大学の淡路剛久名誉教授(民法・環境法)が、水俣病訴訟の現状を解説した。「最終解決に近づけるためには、救済から漏れている地域の疫学調査が必要」と話した。

セミナーは熊本学園大学水俣学研究センターが2011年から企画し、6回目。8日まで。

(赤間早也香)

水俣病特措法 対象域外
133人へ一時金 県初集
計 線引きに疑問

水俣病特措法

対象域外133人へ一時金

県初集計 線引きに疑問



水俣病特別措置法による救済対象の地域外で、鹿児島県内の少なくとも133人が手足に感覚障害などの症状があり、一時金給付の該当者になっていたことが分かった。県が初めて集計した。県内の

対象地域外に汚染された魚介類が流入していたことを行政が示したことになり、専門家からは、対象地域の線引きを疑問視する声が上がっている。

(23面に関連記事)

集計は、特措法で救済されなかった人たちが、国などに損害賠償を求めて係争中の「ノイモア・ミナマタ2次訴訟」で、被告側が5月、熊本、鹿児島両県の作成した資料として熊本地裁に提出した。

対象地域外の一時的金該当者は、旧長島町で

69人に上り、旧高尾野町21人、旧野田町16人、阿久根市では波留、大川地区などの少なくとも計23人。旧国鉄山野線を利用した行商人が流通したとされる旧大口市でも4人が該当していた。

熊本県側では、芦北町の内陸部で3,777人、天草、上天草の両市合わせて500人以上が該当していた。

給付を受けるには、感覚障害などがあることも対象地域内に1年以上の居住歴がない場合、汚染された魚介類を多く食べたことを証

明する漁業証明書などの提示が必要だった。証明できずに救済されなかった人たちが、被害を訴えて裁判で争っている。

鹿児島県は、これまでに「対象地域の線引きに医学的根拠がない」と主張していた。特

で汚染された魚介類を多く食べたのについて「居住歴がさまざまあり、分類は困難」とし、集計していなかった。県環境林務課によると、今回の訴訟の要請を受け、対象地域外の一時的金該当者に限って地域別に分類した。熊本学園大・水俣学

研究センター長の花田昌宣教授(社会政策)は「対象地域の線引きに医学的根拠がない」と主張していた。だが、当初から「不正」(赤間早也香)

に、芦北町の山間部でこれだけ多くの人が対象となったことは驚く「数字だ」と話した。鹿児島県内で特措法救済策の一時的金210万円を申請したのは1万7973人。うち1万1127人が該当者となった。救済対象地域は、公費健康被害補償法に基づく認定患者数を踏まえて県が定めたが、当初から「不正」

水俣病特措法を巡る訴訟
立教大 淡路剛久名誉教授が講演

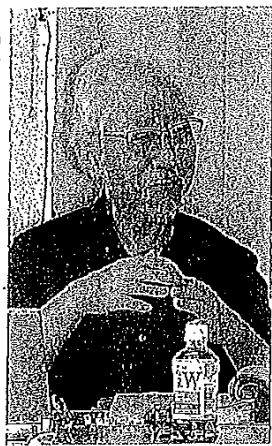
熊本学園大学水俣病研究センターが今月上旬に水俣市で開いたセミナーで、公害訴訟に詳しい立教大学の淡路剛久名誉教授（民法・環境法）が、水俣病を巡る訴訟について講演した。主な発言は次の通り。（3面参照）
水俣病の公式発見から63年を経過し、この間、何度も被害者救済が問題となり、その時々で一応の決着をみた。しかし、今もノーモア・ミナマタ2次訴訟が提起され、審理されている。
それは、水俣病特別措置法の救済策が根本的解決とはならなかつ

水俣病特措法を巡る訴訟

立教大 淡路 剛久名誉教授が講演

原告側主張に説得性

たからだ。多数の被害者は、痲疹（集団を対象者が一定の救済を受け、に疾病の発生原因や健康だが、申請期間が短く、康状態などの調査研究）に基づいて、個別が設けられたことで、被害者のメチル水銀暴露と感覚障害の発症と対象地域外から新たな露と感傷障害の発症と問題が生じた。の因果関係を証明でき2次訴訟の主な争点るかだ。



「水俣病の全面解決はほど遠い状況」と語る立教大学の淡路剛久名誉教授（熊本県水俣市）

不知火海域の調査を

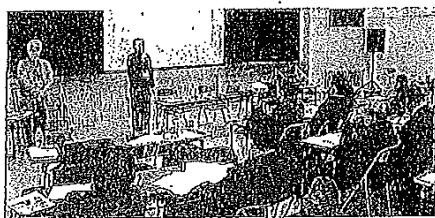
原告側は、相対的危険度や原因確率が一定の高さ（70～80％）を超える場合には、法的因果関係を推定できる。訴訟外の「隠された被害者」の存在があることを主張する。一方、被告側は疫学的研究の結果を個別的因果関係の結論に用いることはできないとする。
最近、原因確立が80％程度を超えるような場合は、個別的因果関係の証明を肯定するのが有力となつてい。疫学専門家の意見書などを踏まえると、原告側の主張に説得性がある。ただ、仮に同訴訟の判決が原告の請求を認めたとしても、それで水俣病被害者救済問題が最終的解決になるのは難しいかもしれない。訴訟外の「隠された被害者」の存在があるからだ。
最終解決に近づけるには、救済から漏れている不知火海域の疫学調査が必要だ。また、公害健康被害補償法の改正や、裁判所が間に入って和解の仕組みをつくるなど、新たな法的被害者救済システムが必要となるかもしれない。
（赤間早也香）

2020/01/12 日曜日

南日本新聞 朝刊

22 面 3 段

胎児・小児期水銀被害学
ぶ 水俣病研究交流会



胎児・小児期
水銀被害学
水俣病研究交流会
水俣病事件研究交流
集会在11日、熊本県水
俣市公民館で始まっ
た。10日に福岡高裁で
結審した胎児・小児期
のメチル水銀被害を巡
る訴訟(第2世代訴訟)の
控訴審などについて
報告があり専門家が

意見交換した写真。

第2世代訴訟の原告

は、鹿児島、熊本両県
に住む59、66歳の男女

8人。発症初期の患者

の子ども世代にあた

り、国、熊本県、チツ

ソに総額約3億円の損

害賠償を求めている。

12年前の提訴から支

える水俣病被害者互助

会事務局の谷洋一さん

(左)は「行政が魚介類

の流通を封じ込めるな

どの対応をすぐにして

いれば、多くの命が救

われ、症状を軽減でき

た」と訴えた。

集会は患者救済に尽

くした故原田正純医師

(まつま町出身)らの

提案で1996年に始

まり、今年は県内外の

研究者ら約170人が

参加した。12日まで。

(赤間早也香)

水俣病 互助会訴訟審13日
判決 胎児・小児期認定
が焦点

水俣病

胎児・小児期認定が焦点

互助会訴訟審13日判決

胎児・小児期のメチル水銀被害を訴えている水俣病被害者互助会の訴訟認定審が、熊本県、熊本市に訴訟約3億円の損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決が13日福岡高裁で言い渡される。発症初期の被害の子も世代に当たる。発症世代の原告たちが水俣病と認定されるかどうか最大の焦点となる。



8人は、水俣病の公式認定とされる1956年前後に長島町や水俣市などで生まれた。「頭痛やめまい、手足のしびれなど、自分の体が少しずつ、つらそうだった親たちと同じような状況になっていく」。今年1月10日、福岡高裁であった最終弁論。原告の1人で出水市に暮らす女性(60)が法廷で思いをぶつけ

結審を前に、水俣病被害者を訴える原告や支援者11月10日、福岡市の福岡高裁。熊本県の漁村で漁師の家生まれ、毎日魚を食べて育った。祖父や両親ら10人を抱える親族が認定患者。自身も若い頃から吐き戻りや頭痛に苦しんだが、誰もにある症状だと思っていた。2005年に鹿児島県へ認定申請し、16年に棄却された。14年3月の熊本地裁一審判決は、女性ら鹿児島関係の2人を含む3人を水俣病と認め、チツンなどに総額1億1600万円を支払うよう求めた。被告側は、胎児・小児期認定を求めた理由を棄却した。原告側は全8人の認定などを求め控訴。被告側も認定を不服とし、控訴した。

胎児・小児期認定を求めた理由を棄却した。原告側は全8人の認定などを求め控訴。被告側も認定を不服とし、控訴した。

胎児・小児期認定を求めた理由を棄却した。原告側は全8人の認定などを求め控訴。被告側も認定を不服とし、控訴した。

胎児・小児期認定を求めた理由を棄却した。原告側は全8人の認定などを求め控訴。被告側も認定を不服とし、控訴した。

行政追認強まる 水俣病判決 判断基準は曖昧 (解説)

行政追認強まる

水俣病判決 判断基準は曖昧

(解説)

胎児・小児期のメチル水銀被害を訴えた原告の人数を水俣病と認定しなかった福岡高裁判決は、一審判決より行政追認が強まった。どういった症状があれば水俣病とされるのか高裁としての判断を示さないまま、門戸の狭い1977年の国判

胎児・小児期のメチル水銀被害を訴えた原告の人数を水俣病と認定しなかった福岡高裁判決は、一審判決より行政追認が強まった。どういった症状があれば水俣病とされるのか高裁としての判断を示さないまま、門戸の狭い1977年の国判

胎児・小児期のメチル水銀被害を訴えた原告の人数を水俣病と認定しなかった福岡高裁判決は、一審判決より行政追認が強まった。どういった症状があれば水俣病とされるのか高裁としての判断を示さないまま、門戸の狭い1977年の国判

「最悪」原告ら失望、怒り

「最悪」原告ら失望、怒り

「これまでひどい最悪の判決は予想もなかった。一審が水俣病と認めた原告らも、この判決で失望、怒りを感じている。原告側代理人の佐伯良祐弁護士は「被告の主張をうのみにした判決。怒りを感じている」と述べた。原告側代理人の佐伯良祐弁護士は「被告の主張をうのみにした判決。怒りを感じている」と述べた。原告側代理人の佐伯良祐弁護士は「被告の主張をうのみにした判決。怒りを感じている」と述べた。

「これまでひどい最悪の判決は予想もなかった。一審が水俣病と認めた原告らも、この判決で失望、怒りを感じている。原告側代理人の佐伯良祐弁護士は「被告の主張をうのみにした判決。怒りを感じている」と述べた。原告側代理人の佐伯良祐弁護士は「被告の主張をうのみにした判決。怒りを感じている」と述べた。



敗訴 若林とこま 原告側代理人の佐伯良祐弁護士が、福岡市で記者会見を開き、判決について話している。背景には「敗訴」と書かれた横断幕が掲げられている。

原告側代理人の佐伯良祐弁護士は「被告の主張をうのみにした判決。怒りを感じている」と述べた。原告側代理人の佐伯良祐弁護士は「被告の主張をうのみにした判決。怒りを感じている」と述べた。原告側代理人の佐伯良祐弁護士は「被告の主張をうのみにした判決。怒りを感じている」と述べた。

2017. 1. 8

読売新聞

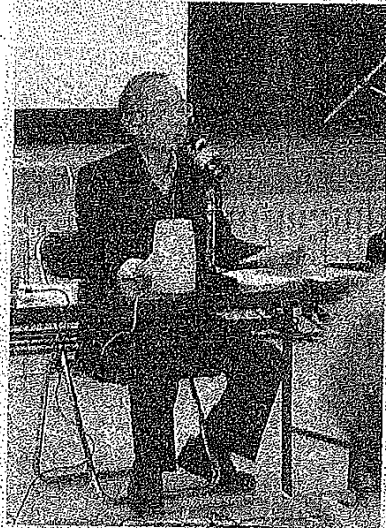
朝刊

2 面 1 段

水俣病事件研究会始まる 130人
聴講

熊本 2017年(平成29年)1月8日(日曜日)

言



研究成果を報告する矢作さん

水俣病研究集会始まる 130人聴講

水俣病研究者らが研究成果や活動を報告する「水俣病事件研究交流会」が7日、水俣市公民館で始まり、市民ら約130人が聴講した。8日まで。

水俣病を巡る課題解決に

向け、議論を深めようと、熊本学園大(熊本市)が事務局となつて毎年開いており、12回目。

水俣病の原因企業、チツソの歴史を研究している矢作正さんは「1970年代

チツソ救済の経緯と論点」と題して発表。チツソ副社長を務めた久我正二氏(2008年死去)のメモから、患者への補償で経営危機に陥った同社への公的支援の実施を国が決めるまでの経緯などを明らかにした。

質疑応答では、「チツソは企業城下町の城主として振る舞うのではなく、市民と一緒に進めるべきだ」などの意見が出された。

8日は医師や支援者らが、水俣病の実像や係争中の訴訟などについて報告する。

2018年 9月 25日

朝・毎・読・南・熊日(朝・夕)・日

【月給約5000円(本体価格2800円+消費税2200円)】(発行日)180円 (内316号発行日)

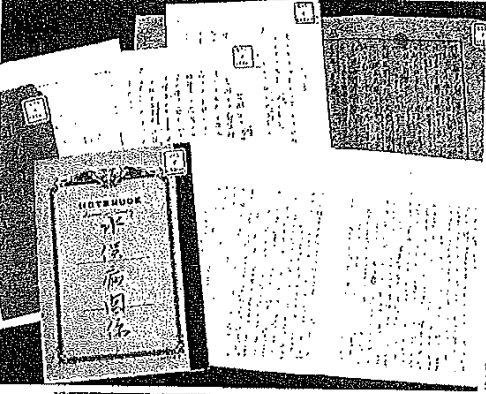
水俣病

水俣病の発生後、薬業界や官庁などは高層幹部を派手なチャックを推進した。それによって事実上迫り続けたのは、現場で患者を扱った熊本大研究班や支援者だった。

「笑われた人間はかえらな。一生懸命では普通にはならない。それが苦しみと考えるなら、熊本政の思い上がりや強硬さもある」

「ノートは2010年5月、熊本学園大の一室でボールの中から見つかった。朝の帳簿と似ていた資料を整理していた時だった。藤氏は前身の大学の学長でもあり、学大の目黒新一理事長(77)は

経済発展の裏 真実求め



「口頭から『資本主義が行き過ぎ、その恥部は問えられなくなる』(田中)と語っていた。生半かに「重要だ」と語った。

藤氏は98年、旧厚生省(現・厚生労働省)が監査した水俣病中絶特別委員会で代表を務めた。同委員会は部会の中絶報告、現地調査、患者の診察を行った。藤大研究をもとに「原因物質としては水銀が最も重篤な」と発表し

しかし、チソは旧日本軍が海に捨てた爆弾を原因とする説を唱え、現地の調査も行った。爆弾の調査や爆弾が生活に不可欠なプラスチックやビニールの原料を提供するチソを、官

「もはや事後ではない。時代高度経済成長のまっただ中だった。中間報告から1か月後に開かれた関係府庁の連絡会議、熊本大の水俣病調査を批判する田中産官(現・経済産業省)の局長は、藤野た

「金ですむ」冷酷さに異議



石井 礼子さん

「た。藤氏が怒りをあらわにした。『研究には長い間、苦しみを経験した。頭から西澤さんは何事か。早く生害は白紙、特別調査を解散した。』

その頃の思いを藤野は「ノートに吐露している。藤野は不自由な言葉を背負って、株主総会を呼び込んだ。会社と和解したのは罪悪感があった。

水俣病の原因を分析する調査にいた98年頃、関係から「問題になっていく父親だ」と抽出した結果を知られた。これを油断させられた。口をつぐんだ当時について「被害者の一端を語っていた」と語る。

定年後も患者と交流し、水俣病裁判の傍聴を続ける。92年には熊本県水俣市で開かれたシンポジウムで講演し、この半世紀を振り返った。

「企業のアタマがそんなに損をしないのは後を絶たない。社会は水俣病の反省を待たない。山下さんは自分の悔しさを向かいながら闘争を勝ち

経済発展の裏で多くの命が失われ、全てを金で解決しようとすると、人間への蔑視、今年2月に死した作家の石井礼子さんは、藤野氏と通じる思いを、代表作『西澤淳士』で表現した。

「入会などのいのか成仏すべからぬ恨みをつけていることを考えればならない。死害者の魂の遺愛唯一の遺言として

「藤野氏が自問自答して居るノートには、水俣病の発生から70年経って居る2018年9月25日、熊本県水俣市。『目黒新一理事長』

「入会などのいのか成仏すべからぬ恨みをつけていることを考えればならない。死害者の魂の遺愛唯一の遺言として

「入会などのいのか成仏すべからぬ恨みをつけていることを考えればならない。死害者の魂の遺愛唯一の遺言として

ヒ素汚染資料データ化 熊本学園大
土呂久や海外の468点
土呂久公害の研究を進める花田昌宣
センター長は「ヒ素を巡る問題が将来起きないとも限らない。資料を保存して次の世代に伝えることが大事だ」と述べた。

ヒ素汚染資料 データ化

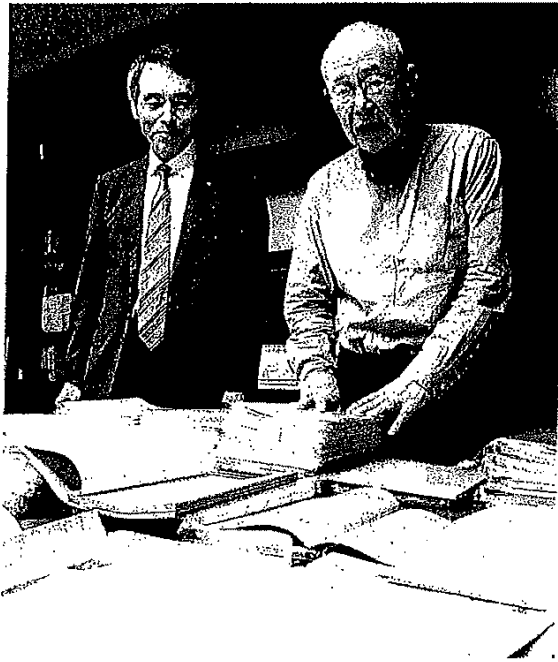
熊本学園大 土呂久や海外の468点

熊本学園大水俣学研究センター（熊本市）は、宮崎県の上呂久公害などヒ素中毒の研究に長年取り組んできた病院理事長の堀田昌宣医師（77）（同）の調査資料をデータベース化し、目録を公開している。海外の汚染地域の記録なども含まれており、同大は「公害の再発防止へ向け、国内外の研究に寄与できる貴重な資料だ」としている。（江口朋美）

再発防止へHPで公開

堀田さんは熊本大医学部一った。当時、同部門の助教を卒業後、同大体育医学研究 授は、水俣病研究の第一人 究所気管支部門の助手とな 者で同センターを開設した

調査資料について説明する堀田さん（右）



原田正純医師（2012年に77歳で死去）。ともに公害問題の研究や被害者支援に取り組んだ。

1974年に診察した宮崎県高千穂町・土呂久地区の女性に、水俣病と似た神経症状があったことからヒ素中毒に関心を持った。翌年から鉱山跡に通い、被害者が鉱業会社を相手取った損害賠償請求訴訟が90年に最高裁で和解するまで、健康被害を調査した。

その後、世界各地のヒ素中毒患者を支援するNPO法人「アジア砒素ネットワーク」の初代代表も務め、2011年頃までにベトナムやカンボジアなど海外のヒ素汚染地域を約20か所訪問した。

この間に診察した患者のカルテや損害賠償請求訴訟に関するメモ、ヒ素中毒が全身病であることを立証するための論文、患部を撮影した写真など約4000点だが、同センターに寄贈された。うち468点の目録を同センターのホームページで公開している。

堀田さんは「ヒ素中毒はまだ解明されていない分野もある。資料を後世に残してもらえるのは、ありがたい」と語る。土呂久公害の研究を進める花田昌宣・同センター長は「ヒ素を巡る問題が将来起きないとも限らない。資料を保存して次の世代につなげていくことが大事だ」と述べた。

資料の閲覧を希望する場合は、事前の申し込みが必要。問い合わせは、同センター（096・364・8913）へ。

土呂久公害 宮崎県高千穂町の土呂久鉱山で1920年代から、染料や薬の原料となる硫砒（りゅうい）鉄鉱が採掘された。精製の過程で排出されたヒ素を含む煙や粉じんを吸った周辺住民がヒ素中毒となり、呼吸器の疾患やがんなどで次々と亡くなった。国は79年、水俣病などに次ぐ第4の公害病に指定した。

「水俣病終わってない」未認定患者ら紛争続く。

熊本学園大学水俣学研究センターの花田昌宣センター長は、「水俣病の発生後、行政の範囲や被害者数をすぐに調査すべきだった。紛争が続く背景に、被害実態の全容が解明できてないことがある」と指摘する。

「水俣病終わってない」

争論の前に被害を折る原爆ら (11月30日、熊本地裁の前で)

「水俣病終わってない」

未認定患者ら紛争続く

公認認定から50年たった水俣病だが、今も県内の未認定患者らが被害認定や賠償を求め訴訟が続いている。患者認定の進捗が緩く、二度の「政治決断」でも救済の枠から漏れた人がいるためだ。

「患者認定、県、チツソから六十数年間、隠されてきた。それを明らかに、事業を断る裁判だ。熊本地裁で」

熊本

訴訟の主な内容	裁判所
水俣病被害者互助会の7人が熊本、鹿児島両府県を相手取り、府県双方の取り扱いを求め、被害認定の取組を求めた。	熊本地裁
水俣病被害者互助会の8人が県、県、チツソを相手取り、魚介類の摂取を規制しなかった行政の責任などを認め、賠償約3億2000万円の損害賠償を求めた。	福岡高裁
水俣病被害者互助会に基づく救済措置で「非認定」などされた1319人が、県、県、チツソを相手取り、賠償約3億2000万円の損害賠償を求めた。	熊本地裁

30歳代半ばの頃、水俣病研究の第一人者である原田正樹医師(2017年死去)の診療を受け、水俣病と診断された。

佐藤さんは「私たちが世代研究の第一人者である原田正樹医師(2017年死去)の診療を受け、水俣病と診断された。病気が疑われていない人も多い。

子どもが生まれたら、いかににも悩まされたが、水俣病は「隠しきれない」など、苦しむ側面を訴えたい。思っている。

佐藤さんは「私たちが世代研究の第一人者である原田正樹医師(2017年死去)の診療を受け、水俣病と診断された。病気が疑われていない人も多い。

水俣病 チツソ水俣工場の排水に含まれるメチル水銀に汚染された魚介類を食べた人が発症した神経系の中毒症状。1950年に水俣市で確認され、08年に公害病と認定された。05年に公害を文私などの政治決断で認められたが、2004年の最高裁判決で認められた。道庁が認められ、認定申請が急増。08年につく救済措置という第二の政治決断が認められた。

はすだと認め。

熊本地裁では、08年に成立した水俣病被害者救済法を巡る訴訟も熊本地裁に起こった。水俣病の発生原因、魚介類の摂取を規制しなかった行政の責任を問う、損害賠償を求めた。13年に人が取り下げ。

14年の地裁判決は、佐藤さんを含む3人を水俣病と認め、2200万1億5000万円の損害賠償を命じたが、県などの損害は認めなかった。このため、原告、被告の双方が控訴し、福岡高裁で控訴審が辨れている。

二つの訴訟は、佐藤さんらには「水俣病特有の手足のしびれなどがある」と主張するが、被告側は「認定病などほかの疾病が原因」などと反論している。原告側は「認定病とほかの疾病が原因」などと反論している。

2019年 1月 13日

朝・毎・(読)・南・熊日(朝・夕)・日

反 熊本 2019年(平成31年)1月13日(日曜日) 頁 23面 乗斥

水俣病研究者ら集会

成果や活動を報告

水俣病研究者らが研究成果や活動を報告する「水俣病事件研究交流集会」が12日、水俣市公民館で始まり、胎児性患者の高齢化による急速な機能低下などが報告された。13日まで。

集会は、水俣病について議論を深めようと、熊本学園大(熊本市)が事務局となつて毎年開催。12日は研究者や医師ら8人が報告し、約160人が聴講した。福岡女学院大の池田理知子教授(コミュニケーション)



研究成果を報告する頼藤准教授

ン学)は、水俣病などの公害問題の特集を組んだ雑誌「暮らしの手帖」の1967年秋号について報告。公害の背景を「人間の生命を

軽く考える風潮だ」と指摘した記述を紹介し、「権力側への痛烈な批判だ。この時期に、こうした特集を組んだ雑誌は少ないのではないか」などと述べた。岡山大の頼藤貴志准教授(環境疫学)は、胎児性患者11人(50〜60歳代)の食事や排せつなどの日常生活

機能を10年前と比較をした結果、同世代の健常者と比べ、著しい低下が見られたことを報告。「(水俣病の影響で)加齢に対抗する余力がないのでは。地域社会での継続的な支援が必要だ」と訴えた。13日は水俣病裁判の現状と課題などが報告される。

本県の新潟水俣病情報発信事業の一環で水俣市を訪れた新大生が案内役を務めたのは、熊本学園大水俣学研究センターの田尻雅美研究員(40)だ。田尻さんに水俣病を現地で学ぶ意義を聞いた。

× ×

水俣病は「負の遺産」としての公費で水俣病を未来に生かすことを目的としています。水俣病研究の第一人者で2012年に亡くなった原田正純医師が提唱しました。

熊本学園大は05年、熊本市に水俣学研究センターを、水俣市に水俣学現地研究センターを相次いで開設しました。初代センター長は原田さんでした。

水俣の現地に足場を置き、国際的視野をもって教育と研究を進めています。

私は胎児性水俣病患者のケアに取り組み傍ら、水俣病を学ば

田尻雅美・熊本学園大水俣学研究センター研究員

うと全国から水俣を訪れる研究者や学生を、水俣学研究センターとして受け入れ、年間20回くらい視察先を選んで案内しています。

その際に大事にしているのは、被害者の住む家や加藤漁村などにも危険な問題があるで、彼らの生活に直接触れなから話をするということです。

諦めない姿勢学んで

水俣病は、チッソ水俣工場が海に流したメチル水銀が原因で、汚染された魚介類を食べた住民が神経障害を発症した特別な事件です。



たじり・まさみ、1968年、熊本市出身。熊本学園大大学院博士後期課程修了。2005年から同大の水俣学研究センター研究助手、17年から現職。専門は社会福祉学。

そして水俣病事件を学び、被害者の支援をライフワークに選んだ人たちもいます。

「被害者になったのは」しよるがない」など諦めなかった被害者とその支援者だと思いま

水俣を視察した学生が将来就職した時、過重労働やいじめなど、理不尽な問題と直面する

その時に「しょうがない」などと諦めてほしくありません。当事者として、あるいは当事者の仲間として、その問題と向き合ってほしいのです。

短い時間ではあっても水俣の人たちとの触れ合いを通して、そのことを学んでほしいと思

平成 27 年度～平成 31 年度
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
研究成果報告書
「水俣病の経験を将来に活かした地域構想と
国際的情報発信のための水俣学研究拠点の構築」

2020 年 5 月 27 日発行

編集・発行 熊本学園大学水俣学研究センター
研究代表者 花田 昌宣
〒862-8680 熊本市中央区大江 2-5-1
TEL: 096-364-8913
E-mail: minamata@kumagaku.ac.jp
URL: <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/>

ISBN : 978-4-903967-16-5